

視察報告書

報告者 公明党 斉藤 真理



1、視察項目

「いじめ防止アプリ ストップ・イット」の授業を視察

2、視察日程及び視察場所

平成30年11月19日（月） おおたかの森中学校

3、視察会派及び参加議員

公明党（斉藤真理 野村誠 戸邊滋）

4、所感

平成30年11月より市内全中学校で導入された、いじめ防止アプリ「ストップ・イット」の授業を、平成30年11月19日、おおたかの森中学校にて視察させていただきました。

アメリカで開発されたこのアプリは、無料でダウンロードすることができ、匿名で市の担当窓口の情報提供できるものです。

当日講師を務めて下さったのは、NPO 法人企業教育研究会の谷山大三郎氏。

本市では今までも、いじめ防止対策として「いじめホットライン」があり、電話とメールで情報提供できるようになっていましたが、年間の情報提供数が24件ほどで、いじめに悩む生徒の声が届きにくい面がありました。

授業では、まず、どのクラスでも起こりうる、特定のクラスメイトへの「無視」や、ライングループなどでの書き込みでの悪口がエスカレートしていく様子を描いた動画を見ます。一人の女子生徒が、その様子を見ていて、このままでよいのだろうか、と悩むシーンで、一度動画は終わります。

その後、4、5人でグループになり、自分だったらこの後こういった行動をとるだろうか、一人一人意見を紙に書きます。

それぞれの意見を、代表で何人かが発表。

「いじめている人に、やめるよう言う」

「いじめられている友達をかばうと、自分がいじめられるかもしれないから言わない」

「直接は言わず、先生に相談する」

など、様々な意見が出ます。

講師の方は、どちらも否定せず、それぞれの意見を肯定します。

次に、「何らかの行動を起こした場合と、何もしなかった場合、2通りの映像があるが、みんなはどちらの映像を見てみたいか」と問いかけ、生徒に選ばせます。

このクラスでは、行動を起こした場合のその後の映像を見ることになりました。映像では、一人の男子生徒の、「ラインで悪口を書き込むのはやめよう」との一言で、だんだん悪口はおさまり、クラスの雰囲気も明るくなったというストーリー。

次に、何もしなかった場合の映像を見ます。こちらは、何も行動を起こさなければ何も変わらず、状況は悪くなっていく可能性もある、という内容になっています。

ここで大切なのは、「いじめ」には、「被害者」と「加害者」だけでなく、見ても行動を起こさない「傍観者」という存在があり、何らかの行動を起こすことで、「いじめ」を無くすことができる可能性がある、という事です。

最後に、SOSを発信するツールの一つとして、ストップ・イットアプリを紹介して、授業は終わります。

いじめを受け、悩んでいる本人や、クラスメイトがいじめを受けているが、自分ではどうしてよいかわからない。そういった生徒の新たな相談ツールとして、ストップ・イットが活用されることを願っています。